

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	介護者等リフレッシュ入浴事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	福祉課		包含する細々目	1	3	1	3	16	2	2,427
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	34 障害者福祉の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要	関連計画 条例等		長野県障害者プラン 飯田市障害者プラン 飯田市障害福祉計画 飯田市在宅重度障害者等家庭介護者疲労回復事業実施要綱			

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	在宅の高齢者・重度障害者の介護者 車いす利用者とその介護者等	常時介護を必要とする在宅の高齢者・重度障害者の介護者(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	1600
		車いす使用者概数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	日ごろの介護の疲れを癒し、リフレッシュしてもらう。 介護者の体力的負担を軽減して、快適な日常生活を過ごしてもら。	温泉施設等を利用した介護者数(人)	18目標	700	最終目標	
			18実績	190	19目標	750
		23目標	800	23実績		
		ほっ湯アップルのリフト付き浴室を利用した車いす利用者人数(人)	18目標	70	最終目標	
			18実績	70	19目標	70
		23目標	70	23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	介護慰労金支給事業見直しによる新規事業 介護者リフレッシュ入浴事業 在宅の障害者や高齢者の介護による疲労を癒す事業 介護者の温泉等入浴施設の利用料を補助する 車いす使用者の入浴事業 ほっ湯アップルのリフト付き浴室の利用料を補助し、在宅では重労働となる入浴の介護の身体的負担を軽減するとともに障害者にとっても憩いの場を提供する事業 介護者を含めた、ほっ湯アップル入浴料を補助する	18年度の実績	介護者リフレッシュ入浴事業 マッサージ事業(介護高齢課担当)か入浴事業のどちらか一方を選択 温泉等入浴施設の利用料補助 500円×5回×190人 市内14箇所の入浴施設が利用可能。 車いす使用者の入浴事業 ほっ湯アップル入浴料補助 400円×12回×70人	入浴回数(回) 入浴回数(回)	950 840
		19年度計画	介護者リフレッシュ入浴事業 温泉等入浴施設の利用料補助 500円×5回×750人 対象者の見直しを実施予定 車いす使用者の入浴事業 ほっ湯アップル入浴料補助 400円×12回×70人 事業の見直しを行い、新しい要綱を作成	入浴回数(回) 入浴回数(回)	3,750 840

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	500	2,427
事業費計(A)		500	2,427
人件費	正規職員所要時間	18年度 120	19年度 120
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	429	429
	トータルコストA+B	929	2,856

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	支援を必要とする障害者(高齢者)及びその世帯が安心して地域で日常生活が送られる。	安心して地域で日常生活が送れている割合	現状値	68.1	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	68
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
介護慰労金支給事業の見直しのため実施したアンケート調査により、介護による精神的・身体的疲労が大きいことがわかった。 身体的疲労を回復する方法の1つとして、入浴の機会を提供し、介護から解放されて、介護者の精神的疲労を癒すとともに、気軽に利用しやすい事業として適していると考えた。	・車いす利用者の入浴の事業は、17年度まで保健課健康推係で「障害者いきいき入浴事業」として実施していた。 ・飯田・下伊那地域には公営の温泉施設があり、入浴のみ可能な温泉もあることから、老弱男女を問わず、レジャーの一つとして定着している。	

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	利用率の向上をいかに図るかが課題である。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	利用率向上のための周知方法の改善。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	多くの重度障害者や介護者に利用してもらうことが必要である。
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	